

## I 今年度の取組と自己評価

## 1 教育活動への取組と自己評価

## (1) 学習活動

今年度の取組目標	自己評価
ア 生徒の学習意欲を向上させるため、質の高い授業を創造する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度より45分×7限授業が始まり、学校評価アンケートでは概ね良好な結果であったが、引き続き検証し授業改善に努める必要がある。</li> <li>・指名制の授業見学や模範授業等を活用し、積極的に外部の授業見学を行い、教え込みではなく主体的・対話的で深い学びを意識した授業展開ができるよう取り組んだ。</li> <li>・年次研修対象者を中心に年間3回研究授業を実施し、授業力向上を図った。放課後の時間を活用し、研究授業について意見交換を行い、成果を教科内で共有した。タブレット等を活用し、主体的・対話的な学習活動ができた。</li> <li>・年に2回、生徒による授業評価を全教科で行い、データを共有し授業改善につなげた。</li> <li>・近隣小学校の授業見学を行い、教科で共有し、一人一台端末を活用した授業の取組や、主体的・対話的な学習活動の取組の一助とした。</li> <li>・観点別学習評価に関して、学校としてルーブリック作成に取り組んだ。事前に生徒に示すことによって生徒の達成目標が可視化され、形成的評価へつながった。また、観点別評価に関して、学期末に各教科で見直し、改善点を確認した。</li> <li>・ALTの配置やJET2名配置により、より authentic な英語学習環境を提供した。</li> <li>・主体的で対話的な深い学びについて、参考となるモデル授業を、設定・参観し、校内研修での共有を行い、組織的に授業の質を高める必要がある。</li> </ul>
イ 教科マネジメントを確立し、組織的に生徒の学力向上に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主学習時間を延ばすため、チューターの配置、テーブルと椅子の新調、掲示板の設置等、自習室の整備を進めた。</li> <li>・毎月1回教科会を年間行事計画の中に位置付け、指導内容や進度、学力向上のための方策を検討し、共有した。</li> <li>・国語、数学、英語において、3年間の指導計画を立案中である。毎年度、内容を精査し、質の高いものとしていく必要がある。</li> <li>・定期的な模試分析会を実施し、教員全体で共有することが定着した。また、各教科で模試結果を活用し、授業改善につなげることができた。</li> <li>・入学者選抜結果や模擬試験において本校の強みと弱み等について、教科や学年内で共通理解を図り、総合的な学力バランスを育成した。</li> <li>・すべての教科・科目で定期考査問題を共通化し、組織的な教科指導を行った。</li> <li>・生徒の学習総時間を考え、他教科の学習時間にも配慮した課題設定を行う必要がある。</li> </ul>

<p>ウ 東京都の教育施策を見据えて、新たな教育課題に対応する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理数研究校では、東京農工大との連携、オリンパス株式会社主催で体の中を見て治す「内視鏡の授業」を実施、夏に「富士山科学研究所」「山梨県立リニア見学センター」の見学、冬に「日本原子力研究開発機構原子力科学研究所（J-PARC 含む）」の見学、工学院大学の見学と教授の講話、鹿の解体実習等を行った。また、天文地球科学部では、生徒向け「星を見る会」や板橋区教育科学館と連携した活動を行った。</li> <li>・「都立高校 TIPS フォーラム 2025」において、6名の生徒が、大学連携の取組や総合的な探究の時間の発表を行った。</li> <li>・Tokyo サイエンスフェア（科学の甲子園東京都大会、研究発表会）に、参加し、日頃の教育活動の成果を発表した。PASCH の事業や JACTFL のシンポジウムなど多くの機会に生徒が参加、発表することができた。</li> <li>・生徒会生徒を中心に、定期的に板橋区立第四小学校の算数ボランティアを行った。</li> <li>・オンライン英会話を活用し、「聞く」「話す」等4技能の育成に重点を置いたきめ細かい指導を実施した。また、海外学校間交流推進校事業を活用し、英検の全員受検を実施し、希望者には試験前の補習や面接指導を実施した。</li> </ul>
<p>エ デジタル技術を活用した教育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に1回オンライン学習デーを設定し、不測の事態でも学びを止めない対応ができるよう訓練した。授業の中でのタブレットの更なる活用が今後の課題である。</li> <li>・行事終了後に Forms を活用したアンケートを実施した。</li> <li>・9割の教員がICTを活用した授業を行っており、一部では小テストや課題提出においてオンラインを活用している。</li> <li>・保護者会や進路ガイダンスなどを校内でオンライン配信するなど、日常的にオンラインを活用している。</li> <li>・グループ学習や調べ学習で資料検索や作成に活用するなど、一人一台端末を有効活用した。</li> </ul>

(2) 進路指導

今年度の取組目標	自己評価
<p>ア 生徒の第一志望の実現を図る進学指導を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路集会や模試の振り返り、外部講師による講演等を時期や内容に応じて使い分け、各学年で計画的に実施した。</li> <li>・勉強合宿や夏期特別講習を実施し、普段の授業よりもハイレベルな内容を意欲ある生徒に取り組ませることができた。また、学習内容の定着だけでなく自学姿勢などを身に付けさせることができた。</li> <li>・模試分析会や教科会を活用し、生徒の成績推移や志望校状況、最新の進路情報について、教員間での共有と働きかけを強化した。</li> <li>・生徒および保護者への情報提供について、「進路ニュース」の頻度を増加しながら、合格体験記の増刷や先輩保護者の声のまとめ配布など充実を図った。</li> <li>・分掌と学年との連携を密にとるよう工夫するとともに、進路面談前に留意点や指導方針を学年と共有することで、個々の適性や学力に応じた支援の充実につなげた。</li> <li>・受験へのストレスにも配慮しながら、学校行事や部活動等を最後まで熱心に取り組ませる指導を行う。</li> </ul>

<p>イ 1 学年より 3 年間を見通した系統的、組織的な進路指導をきめ細かに行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新入生セミナーや夏休みのオープンキャンパスを通じて、大学の教育内容についての理解を深めるとともに、進路指導計画に沿って、各学年で組織的に進路指導に取り組んだ。今後、目的や位置付けを整理し、それぞれの役割の明確化や内容の見直しについて検討する。</li> <li>・ 外部模試の実施前に課題を課し、返却時に学年集会を実施する等、事前事後の指導を行った。</li> <li>・ 模試分析会では主旨及び内容の事前周知を強化し、教員が目的意識をもって参加できる体制を整えるとともに、学年別・教科別の分科会を導入し、教員間の情報共有の充実を図った。</li> <li>・ これまで 1 年生のみに配布していた「進路の手引き」を充実させ、全学年に配布することで、より体系的な進路指導にいかしていく。</li> <li>・ 信州北園プロジェクトをキャリア教育に位置付け、今年度も実施した。今後、実施の意義や目的を明確にし、全教職員に共有していく必要がある。</li> </ul>
<p>ウ 学力向上のため、長期休業日中の講習の参加生徒の増加を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夏期講習は、講座設計の工夫と受講者層の重複を回避させる事前調整を行い、早期の情報提示に努め、昨年度並の講座を開設したため、受講者数が、延べ 1601 名から 1877 名へと大幅に増加した。講習の講座設計において参考となる模試成績等の進路データを提供し、講習の一層の充実につなげる。</li> <li>・ 勉強合宿（1 年）は 52 名が外部施設において、夏期特別講習（2 年）は 43 名が校内の大教室において実施し、いずれも良好な学習環境のもと発展的な講義を受講する機会を確保した。</li> <li>・ 学期中も講習や補講を適宜行うことで、生徒の学習への意識を高めた。</li> <li>・ 1、2 年生は年間を通じて校内予備校を設定し効果的に運用した。3 年生は、受験対策講座を複数設置し、生徒のニーズに対応した。また、小論文講座を複数設置し、生徒の個別指導を円滑に行った。英語講座に関して、英検対策講座を中心に設置した結果、生徒のニーズに応じた対応ができた。</li> <li>・ 校内予備校で小論文講座を夏・秋・冬の年 3 回実施し、指導の充実を図った。自習室の赤本整備を進め、学習環境の改善に努めた。3 年生だけでなく 1・2 年生の自習室利用者も増えている。</li> </ul>

(3) 生活指導

今年度の取組目標	自 己 評 価
<p>ア 規律ある学校生活の中で自立の精神を培うよう、全教職員が一致して指導を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学年 3 回以上の生徒面談を実施し、生徒理解を深めた。</li> <li>・ 遅刻回数に応じて段階的に指導体制を組んだ。今年度、遅刻指導に関して、生活指導部の指導はなかった。</li> <li>・ 考えさせる指導を通じて、生徒の規範意識を高める指導を継続する。</li> <li>・ 今年度より 45 分×7 時間授業になったが、ノーチャイム制で生徒は概ね時間を意識して行動でき、始業・終業のけじめが定着している。</li> <li>・ 始業式や終業式の場を通じて規範意識を高める指導を行った。</li> <li>・ 公共マナーに関して、近隣住民から苦情が寄せられた。その都度、各担任から HR で指導を行った。</li> <li>・ 情報モラルについて、セーフティ教室で外部講師を招き SNS 等インターネットの適正な利用を指導していく。</li> </ul>

<p>イ 生徒が安心して学校生活に取り組めるよう、教育環境を整える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめアンケートを年3回実施した。また、学校いじめ対策委員会を実施し、組織的に対応することができた。第2回いじめアンケートを文化祭後の9月に早めて実施したことで生徒の心情変化の早期把握に努めた。</li> <li>・いじめの定義を生徒、教職員間で再度共有し、「いじめを許さない」風土を醸成する。また、スクールカウンセラーと連携し、相談しやすい環境作りや、早期発見・早期対応できるようにする。</li> <li>・生徒の防災組織を活用して自助の意識を高める取り組みを行った。</li> <li>・不審者対応マニュアルを策定しそれに基づく訓練を実施した。不審者対応訓練を年1回実施し、非常時の対応を身に付けさせる。</li> <li>・毎朝、校門での交通整理を行い、生徒の登校状況を確認した。板橋区立第四小学校児童と通学路を分けることで、小学生と高校生の通学路を確保し、円滑な登校に繋がった。自転車登校者に対して、ヘルメット着用の声かけを行っていく必要がある。</li> </ul>
--	---

(4) 特別活動・部活動

今年度の取組目標	自 己 評 価
<p>ア 文武両道を推進し、学校行事や部活動を通して、生徒の帰属意識を高め、学校生活を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭、体育祭など行事を生徒主体で企画運営させ実施した。行事振り返りを充実させ、より良い内容にしていく。生徒会活動について生徒間で温度差があるため、関心が高まるよう指導していく。</li> <li>・学校説明会において生徒会が生徒目線での資料を作成し、学校 PR を行った。</li> <li>・部活動を通じて帰属意識を高めることができた。</li> <li>・生徒会が中心となって、板四小の学習ボランティアを実施した。天文地球科学部が板橋区との連携により活動を行った。</li> </ul>
<p>イ 部活動を通じて、ルールを順守する態度を身に付けさせると共に、目標に向かって協力し、努力する態度を育成させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動加入率114%で兼部を含めて高い加入率となった。今後、非加入の生徒を減らし実質加入率も高めていく。平日と土日に1日ずつ休養日を設け学習とのバランスを取り活動をするよう促し、全ての部活動で適切に実施されている。</li> <li>・各部より計画を提出させ概ね計画に基づいて適切に運営された。</li> <li>・学校ホームページの部活動ページの更新が十分ではないため、今後、適切に更新する。</li> <li>・下校時間の遵守など、徹底する必要がある。</li> </ul>

(5) 美化・健康づくり

今年度の取組目標	自 己 評 価
<p>ア 生徒の心身の健康に配慮した教育活動を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健計画を策定し、定期健康診断による生徒の健康状況の把握、緊急時の対応の徹底を図った。</li> <li>・交通安全や薬物乱用防止についてのセーフティ教室を開催した。</li> <li>・SCによる1年生の全員面接を実施した。教育相談体制を整え、生徒理解や特別支援教育についての研修を複数回行った。相談室の利用は昨年と比較して大幅に増加した。また、年間3回専門医派遣事業を活用し、専門的アドバイスを受け、相談体制を強化した。</li> <li>・生徒に感染予防の指導、加湿器の配布、換気の指導を行い、感染予防対策の徹底、意識啓発を行った。</li> <li>・都立学校版コンディションレポートを3回実施し、発信した生徒に対</li> </ul>

	して、相談カードを発行し、SCにつなぐことができた。
イ 快適な学習環境維持のため、校内美化や保健衛生に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な大掃除による清掃を徹底し、校内美化に取り組んだ。</li> <li>・アレルギーを持つ生徒の情報共有を行い、エピペンの使用方法に関する校内研修を行った。</li> <li>・校内施設、設備の維持管理に努めた。</li> </ul>

(6) 募集・広報活動

今年度の取組目標	自己評価
ア 広報活動を工夫し、組織的かつ戦略的に進めることで本校を第一志望とする生徒を獲得する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校教育活動の全体像を理解した受検生を確保するため夏期校内ミニ見学会を10回実施した。(参加者1130名) 学校見学会参加者1159名、校内説明会3回1202名、その他3777名、総参加者7268名であった。次年度に向け、酷暑対策や地域の精選を図り、効果を上げる。</li> <li>・説明会に生徒の話す場面を設けたり、生徒会による質問コーナーを設けたりすることで、生徒の視点から学校の良さをPRした。</li> <li>・全教員で学校見学会や説明会の対応に取り組んだ。</li> <li>・HPの内容を再度見直し、より見やすく分かりやすいものとすることで、教育活動の情報発信を組織的に取り組む。地域への情報発信が不十分であるので、その方法等について検討していく。</li> </ul>

(7) 特色ある教育活動

今年度の取組目標	自己評価
ア 海外学校間交流推進校としての活動を充実させる。「学校 2020 レガシー」として、相互交流を中心とした豊かな国際感覚を育成し、国際理解教育を推進することで、世界で活躍できる人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オーストラリア語学研修を実施した(29名参加)。ホームステイと語学研修を通して交流を深め語学力や国際感覚を身につけ、充実した時間を過ごした。事前・事後研修を充実させることで、より学習効果を高めることができた。また、スミスヒル高校から個人での短期留学を受け入れ、より長期間の受け入れにより異文化への理解が深まった。</li> <li>・JUKU 奨学生として1名の生徒がドイツ短期研修へ参加した。また、PASCH ラリーへ11名、ドイツ大使館訪問へ9名、企業訪問(ポルシェ)へ3名、模擬裁判へ1名、PASCH Treffenへ8名が参加するなど積極的な参加が見られた。</li> <li>・海外語学研修の事前研修を兼ねて、校内で3日間 Global Studies Program を実施した。海外語学研修に参加しない生徒も参加できるように設定したため、積極的な取組が見られた。次年度に向けて、他の学校行事と調整し、生徒が参加しやすい日程にできるよう検討する。</li> <li>・東京都指定校限定4技能保証型英検にて全学年が英検を受検。校内予備校の指導内容を英検対策としたことで一定の効果があつた。ドイツ語検定A1:10名、A2:4名が受験。</li> <li>・各種検定合格率向上のため、対策講座を実施した。</li> </ul>
イ 「信州北園プロジェクト」によるキャリア教育・環境教育、探究活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究学習の円滑な実施のため、各学年の学年担当と探究担当が「探究コーディネータ」として協働し、運営体制を構築した。また、探究コーディネータは、担当学年の講座担当を兼任せず、「探究」の時間の共通講座を実施し、講座担当の補助を行った。</li> <li>・「総合的な探究の時間」に、大学(院)生をティーチングアシスタントの活用や、異学年交流の実施等、新たな取組を導入した。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「信州北園プロジェクト」では関係機関と連携し、一定の内容の活動ができるようになってきている。探究活動の内容については検討が必要である。今年度より、野生動物対策のマニュアルを作成し、関係機関とも連携して対策を行った。</li> <li>・探究活動の内容が例年似た内容になっており、長期的なテーマを設定するなど工夫が必要である。</li> </ul>
--	---

(8) 学校経営・組織体制

今年度の取組目標	自己評価
ア 進学指導推進校としての組織的な学校運営を推進し、協働体制を確立する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケートを共有することで、課題意識が芽生え、対応策を検討する等、円滑な学校運営につなげることができた。生徒、保護者、教員で大きく差のある項目が課題となる内容である。</li> <li>・教科主任会を定期的に開催した。新しい教育課程を検証し、課題を抽出して、改善していく必要がある。</li> <li>・拡大分掌部会の実施が少なく、学年・分掌間の情報共有は、教員同士が個人的に行うことが多かった。次年度は、拡大分掌部会を設定する。</li> <li>・観点別評価や指導と評価の一体化について、毎年見直しを行い、ブラッシュアップしていく。</li> <li>・自習室環境を整備し、3年生を中心に、学校で自学自習の習慣を付けることができた。</li> <li>・自主学習支援事業で増額申請し1900時間を確保した。</li> </ul>
イ 働き方改革を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都のアウトリーチ面談を取り入れ、教職員一人一人と心理士が面談を行い相談することができた。次年度も継続して実施する。</li> <li>・庶務事務システムで毎日の出退勤時刻を「見える化」することにより、業務の精選や効率化について教員の意識を高めた。企画調整会議で業務削減や超過勤務削減を呼びかけた。</li> <li>・副校長の指導や企画室担当のシステム操作案内により、庶務事務システムを円滑に運用できるようになりつつあり、週休日等の振替申請や休変の取得が、概ね適正に処理できた。</li> <li>・超過勤務の職員を確認し、産業医面談を実施した。</li> <li>・自己申告で、主幹教諭や分掌主任に、業務見直しを指示するとともに、業務過多の職員へのフォローを依頼し、定期的に対応した。</li> </ul>
ウ 教職員の資質・能力を向上させ、進学指導推進校として教育活動を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導部の指名制の授業研究（6回）、指導教諭の模範授業（2回）、その他3回を活用し、積極的に外部の指導者の指導方法を学び、教科会等を活用して共有した。</li> <li>・各分掌で新規採用教員・若手教員に対してOJTを実施した。リアテンドラントや授業・行事のオンライン配信等の業務内容について成果があった。</li> <li>・指導教諭を中心に、若手教員の研修会を3回実施した。</li> <li>・進路指導に関する研修を2回、出願指導検討会を1回開催し、指導方針と生徒の状況について教員間で共有できた。</li> <li>・教員から広く体罰根絶に向けたメッセージを募って体罰根絶を目指すポスターを作成し、職員室の見やすい場所に掲示した。</li> </ul>
エ 経営企画室の経営参画を推進し、業務を円滑に遂行する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調改修工事による教育活動への支障がないよう関係部署と調整を行い、授業や講習に影響がないよう施工した。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自律経営推進予算の補正予算から財源を捻出し、LL教室及び社会科教室の机・椅子を更新した。</li> <li>・校舎の老朽化による不具合が頻発している。故障が生じるたびに修繕発注等の対応をとるが時間がかかることもある。本庁やTEPROとの連携を密にし、施設の維持管理に努める必要がある。</li> </ul>
--	---

## 2 重点目標への取り組みと自己評価

重点目標	具体的な数値目標と結果	評価
(1) 生徒の学力を向上させる。	ア 学年+1時間の自主学習時間を確保している生徒の割合 50% [39.1%] イ 大学入学共通テスト全国平均上回り率 教科平均1.18 [1.16] ウ 実用英語技能検定の3年次合格者 2級以上160人 [212名]、準1級以上20人 [42名] エ 長期休業期間中の講習・補習開講数 100講座以上 [145講座]	△ △ ◎ ◎
(2) 進学指導推進校としての進学実績を向上させる。	ア 国公立大学現役合格者 60名 [52名] イ 大学入学共通テスト出願率 95% [96.1%]、6教科8~9科目受験45% [37.0%]	△ ○
(3) 生徒の基本的な生活習慣を確立させる。	ア 遅刻者数各クラス1日平均 1人以内 [1.12人] イ 部活動加入率 100% [114%]	△ ◎
(4) 募集対策を充実させる。	ア 学校説明会・学校見学会来場者数 5000人 [7268人] イ 入学者選抜【推薦に基づく選抜】応募倍率 3.60倍 [2.61倍] ウ 入学者選抜【学力検査に基づく選抜】応募倍率 1.80倍 [1.90倍]	◎ △ ○
(5) 学校評価アンケートにおける教育活動への満足度を向上させる。	ア 満足できる授業 80% [生徒85.8%、保護者76.5%] イ 第一志望実現を支援する進路指導 80% [生徒86.5%] ウ 生徒と向き合う生活指導 80% [生徒86.5%] エ 教育相談の整備、校内美化の取組 80% [生徒85.2%、82.5%] オ 学校行事の取組・部活動満足度 80%以上 [生徒94.7%、86.8%] カ ホームページ等による適切な情報発信 80% [生徒82.9%] キ 国際理解教育の充実度 80% [生徒93.9%] ク 「信州北園プロジェクト」による人間力育成 80% [生徒77.8%]	○ ○ ○ ○ ◎ ○ ◎ △

◎ 達成 ○ ほぼ達成 △ 未達成

## II 次年度以降の課題と対応策

### (1) 教育活動の質を向上させる

- ①学校評価アンケートの回収率が高まり、授業への満足度を把握することができたが、目標達成しているとは言えないため、校内研修や模試分析会等で本校の課題を把握し、研究授業等をとおして授業改善や授業力向上を促していく。また、教え込み型の授業ではなく、主体的、対話的で深い学びを実現できる授業展開ができるようにしていく。特に45分×7限授業の検証を引き続き行っていく。
- ②観点別評価に関して、各教科のルーブリックを作成した。事前に生徒に示すことによって生徒の達成目標が可視化され、形成的評価へつながった。各観点の評価のバラつき等の課題が散見されるため、より適切

な評価ができるよう引き続き校内研修を実施していく。

- ③家庭学習時間に関して、校内の自習室での取組が入っておらず正確に把握できなかったため、次年度に向けて改善する。合わせて、自習室活用等を促進し学習時間の定着を促す。
- ④各教科の課題の量の調整に関する問題提起がなされるが、課題提出の時期や課題の質に関しても教科会等で検証する必要がある。
- ⑤進路アンケートの結果、多数の生徒がスマートフォンに多大な時間を費やしている結果が出た。今年度、手帳を導入し時間管理を促す予定であったが、手帳活用を促進するまでに至らなかった。次年度も引き続き1年生から手帳を活用し、時間管理意識についての指導を行っていく。
- ⑥一人一台端末の活用に関しては、先進校の活用状況等を参考として、活用を推進していく。教科間でも差があり、進んでいる教科の事例を共有し、活用を推進する必要がある。
- ⑦昨年度に引き続き、長期休業日の始期終期を変更し、夏季休業期間を短くして文化祭準備期間を確保した。学校行事を充実させるとともに、冬季休業期間が延びた時間を活用して、講習等の時間を確保し、3年生の受験対応等を充実させていく。

## (2) 生徒の高い進路希望を実現する

- ①国公立大学進学実績については入学時から意識づけを行い、苦手科目を諦め、科目を絞るような安易な進路選択をせず、幅広く学習することで教養主義を貫き、国公立進学を目標として学習に励むよう、全教員が同じスタンスで指導していく。特に、生徒の高い志を最後まで維持させ、途中で諦めさせないようにする。
- ②長期休業中や放課後、大学入学共通テスト後の時期等、講習や添削指導などのきめ細かい指導を行い、生徒の進路希望実現に向けて尽力した。また、集会等を活用し全体で進路指導を行うことで、クラス間の差を無くし、全体の進路意識を醸成した。学校を頼り、学校を中心とした集団で受験に臨む気持ちを醸成していく。
- ③模試分析会の内容を見直し、目的意識をもって分析会に参加できるようテーマ設定し、関係職員の参加を悉皆として、職員の進路指導に対する意識を醸成した。教科主任会で、模試分析会を活用した授業改善を推進していく。
- ④長期休業中の講習を、塾や予備校の講習発表より日程を前倒しして設定し、生徒が学校の講習を利用しやすいようにして、学校で生徒が講習を活用できるようにした。学年の担当者が講座を担当することが多く、日程に縛りが出るため、教科として計画的に講習を設置する必要がある。
- ⑤「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱をバランスよく育成する授業改善を進めるとともに、入試問題の分析も推進する。
- ⑥学校経営計画の数値目標として、国公立大学進学を掲げ、生徒や保護者に周知するとともに、広報活動にも取り入れ、中学生の進路選択時に本校の方針を理解させる。
- ⑦三者面談を活用し、生徒本人はもちろん、保護者の意向についても適切に把握し、学校・生徒・保護者が一体となって、学校の進路指導で生徒の進路実現を目指す。
- ⑧本校の特色である国際理解教育を一層推進するとともに、信州北園プロジェクトについても、キャリア教育における位置づけを再確認することで、その目的や狙いを教員間で共有していく必要がある。

本校は、進学指導推進校として、生徒の高い進路希望を実現させるべく、質の高い教育活動を行ってきた。PASCH校として利点を活かした国際理解教育と、特色ある信州北園プロジェクトの取組をさらに発展させつつ、今後もより高い目標（ゴール）を目指し、全教職員一丸となって学校改革を進め、生徒の進路希望実現と、生徒・保護者・地域の期待に応えられる学校づくりを更に推進する。